

平成 29 年度 第四回第 1 層協議体 会議議事録

日 時：平成 29 年 12 月 4 日（月）14：15～16：15

場 所：パルテノン多摩 第 2・3 会議室

出席者：	高齢者福祉に関する社会福祉法人の職員	鶴岡 哲也
	社会福祉法人多摩社会福祉協議会の職員	川田 賢司
	公益社団法人多摩市シルバー人材センターの職員	伊藤 芙美子
	高齢者福祉に関する NPO 法人団体の構成員	伊藤 玲子
		杉本 依子
		寺田 美恵子
		藤咲 憲子
	消費生活協同組合の職員	茂木 利信
	生活支援サービス又は介護予防サービス関係企業の職員	
		渡辺 桂祐
	保健福祉関係者	近藤 一美
	老人クラブ関係者	金光 秀郎
	自治会又は管理組合関係者	藤井 富男
	医師会関係者	田村 豊
	独立行政法人都市再生機構の職員	追川 典子
	地域包括支援センターの職員	柘淵 正
	介護予防による地域づくり推進員	桐林 亜希子
司会：	第 1 層生活支援コーディネーター	田中 千秋
出席オブザーバー		
	公益財団法人さわやか福祉財団	丹 直秀
	第 2 層生活支援コーディネーター	森田 一光
		畔上 なつ美
	生活支援サービス又は介護予防サービス関係企業の職員	
		神南 美和
	多摩マイライフ包括支援協議会	高橋 栄
	多摩市職員	田島 佐知子
		水谷 正恵
		山田 洋子

（開会時刻：14 時 15 分）

開会

司会

皆さま、本日もどうぞよろしくお願ひしたい。冒頭に 2 点説明させて頂く。資料に各分科会

の開催情報を記載。都合がつけば参加頂いている分科会以外への出席も検討を願いたい。次に1月28日「健幸・支えあいフォーラム2018」について。午後の開催で、場所は関戸公民館ヴィータホール。前回の協議体全体会でもお願いしているが、受付・舞台・誘導など当日のお手伝いのお願いがあるため、ご協力をお願いしたい。チラシは今月の中旬に完成予定で、出来れば年内から皆様の所へお届けするので、関係者・市民の皆様へ周知をお願いしたい。資料の確認で配布資料は3部。A4「本日の資料」、永山モデル3、4号「各分科会資料」、さわやか財団さんの資料2部。会議途中でさわやか財団の資料については、内容含めて丹さんからご説明頂ければと思う。

まずは、コーディネーターからの報告について。5つの事業計画に基づき、分科会それぞれが月1回ペースで行っているので、各分科会に参加、週1ペースでの出席となっており、それぞれの分科会の準備、資料や議事録の作成を行っている。皆様には引き続き、今月以降も参加をお願いしたい。サービスの担い手という所で、地域資源の開発、訪問Bの生活支援サポーター養成講座をゆづり葉の杉本さんに講師をお願いして、計画の3回を全て終了した。加えて、ヤマト運輸さんのイベントに、訪問Bの生活支援サポーターさんに同行して頂くため、同行支援研修を9月の末に開催。研修開催の合計は今年度4回となった。全市的な生活支援のサポーターを増やしましょうという事業、介護保険の財源を使つての事業。ネットワークの構築に関するところは、本日の協議体がそれにあたる。今年度は残りあと1回を予定している。それから、ニーズ把握。これは生活支援ニーズをどのように把握していこうかというところ。地域包括支援センターの代表者会議へ参加、社会福祉協議会さんにご協力いただき、地域福祉推進委員会に参加して把握に努めている。こうして得た情報のアウトプット、皆さんにお示しするまでには至っていない。中部地域包括支援センターが事務局で開催している、永山地域連絡会については、生活支援の分科会から報告があるが、第2層コーディネーターと市民の皆様と一緒に参加しているところ。他に第2層コーディネーターと多摩市の高齢支援課と連絡会や、イベントの開催に向けた参加団体との調整なども行っている。どこの分科会でも、地域資源をまとめた冊子などを出すのが第1層の大切な役割だと感じているところで、桐林さんと協力して行っている。各分科会で、少し深掘したものがほしいというところでは、例えば「生活支援のメニュー表」、「居場所のエリアごとのマップ」などについて各分科会で検討している状況。

写真について説明に入る。(スライド参照しながら)11/21-22、12/1の訪問B生活支援サポーター養成講座の写真。初任者、資格を持っていない方には、2日間で10時間の受講をお願いしている。ヘルパーさんの資格を持っている方や事業所の会員で既に活動されている方は、半日の研修講座を用意した。研修の資料作成と講師は、ゆづり葉さんをお願いしている。同行支援研修の写真。ヤマト運輸さんの社員の方々にも研修参加の希望者には受講頂いた。サポーターの受講者は20名程度。こちらの研修を受けて頂き、当日の同行支援に入って頂いた。イベントの説明のあと一緒に同行させて頂いた。けがもなく無事に終了している。また反省や課題出しについては、まとまった段階でみなさまへご報告させて

頂く。11月30日の永山地域連絡会についての写真。中部地域包括支援センターが事務局となり開催された。後で生活支援の分科会から詳細の説明を行って頂きたい。

出席オブザーバー

みなさんこんにちは。第2層生活支援コーディネーターの森田です。第2層からの報告を口頭で行う。田中さんと連携した動きを行っており、各分科会に参加している。地域包括支援センターとの連携も行っており、地域包括支援センターの代表者会議、自立支援ケアマネジメント会議に参加している。地域に入っただけの部分、少し細くなるが報告する。

9月から本格的に活動しており9月、10月の主だったところの報告をさせて頂く。新たな居場所の立ち上げとして、連光寺6丁目に、週1回の介護予防の体操の場を作りたいという相談を受け、1つサロン化し、週1の場が出来た。サロンのない地域、永山2丁目に、介護予防リーダーさんと連携、体操の居場所づくりを行っている。毎回13~14名の方が参加している。12月に有償の場所となるが、高齢者、子ども達の交流の場を作ろうという事で、食を通じた物で考えている。民生委員、学校などにご協力頂くと共に、食材に関してはフードバンクさんにご協力頂き、居場所づくりを行っている。高齢者が担い手として活動する場の確保という事で、貝取小学校でのコミュニティーガーデンという緑化の取組を行った。恵泉女学園大学の澤登先生に講演頂いたところ。今貝取小学校の通学路など、地域の皆さんと協力して緑化を行っている。貝取小学校のホームページで活動の様子が紹介されているので、是非ご覧頂きたい。他には百草団地で、見守りサポーター養成講座を受けて頂いた方。その後永山の見守り相談窓口の見学などに繋ぎ、百草団地でも同じような取り組みが出来るかを模索しているところ。和田地域は、ネットワーク作りとしてコミュニティセンターが出来ることが、社会福祉協議会の取組についてお話の機会を設けて頂いている。マッチング部分では、特養の愛生園さんでお食事会を行った第2弾として、10月30日に桜ヶ丘地域で、お食事会を開催した。百草団地は年明けから定例化の予定でいくという事で活動が始まっている。色々な居場所、マッチングなど行っているところ。

出席者

移動分科会の報告をさせて頂く。3回目を10月6日、4回目を11月17日に行った。

3回目は田中さんから報告があった、ヤマト運輸さんの出歩き促進事業の、進捗などについて報告があった。「移動資源マッピング」も行い、連光寺・聖ヶ丘・乞田・貝取ふれあい館・桜ヶ丘・和田・百草団地の地域が、買い物や通院に不便な地域ということで共有した。また多摩市の地図を広げて、5階建ての建物でエレベーターがない団地、坂道が多い、買い物が可能な場所などもマップに落としていった。5階建てのエレベーターのない地域では、地域でお買い物が出来るというところで、この辺りは同行支援があれば、日常生活が便利になるのではないかという意見が出た。買い物も出来なく坂道が多いという地域が分かってきて、そうした地域には車両などの移動があると、便利になるのではないかとの意見が出た。ニーズ調査なども別に行った方が良いのではないかとの意見が出た。車両を使っただけとなるとリスクも伴うので、それに対応して研修なども行う必要性について

検討をした。宿題では、バス路線がどうなっているのかという話題が上がり、次回4回目にて検証となった。4回目ではバスでの出歩きがどうなのかという事について検証した。またヤマトさんの出歩き促進事業が終了しておりましたので、実績や訪問Bのサポーターさんがどうだったか、9月の研修を終えて同行してみてどうだったかのアンケートを行っており、今後報告出来ればと考えている。移動の分科会で、地域でモデル試行をという話しが進んでいる。平成30年に向けて、移動モデルの検証の為の計画を作っていきたいと考えている。第1層で話を進めていくだけでは足りず、どちらかというと社会福祉協議会さん、第2層のコーディネーターさんを中心に地域の皆さんをいかに巻き込んでいくのかという事が大切になってくると思う。第1層が突然、この地域で移動モデルをやりますというよりは、地域の皆さんがいかに自分たちの問題を自分たちで解決していくかという方向で、地域の皆さんと一緒にやってもらうにはどうしたらよいか。モデルだけで終わらず将来的にも継続していけるようにするにはどうしたらいいのかというところで、ご意見を頂けたらと考えている。

司会

今ヤマト運輸さんのお話も出たので、少し簡単にどんな感じだったかヤマトさん目線のご意見を頂きたい。

出席者

10月に弊社で行った出歩き促進のイベントでは皆様にご協力を頂きまして御礼を申し上げます。おかげさまで、けがやトラブルに見舞われることもなく、無事に終了した。10月の1ヶ月をかけて実施した。11月は弊社の中で取りまとめ等進めており、きちんとした報告はまだ用意していないので、担当している神南から報告をさせて頂きたい。

傍聴

10月の毎週火・木曜日で8日間実施し、午前と午後の合計16回を用意しておりましたが、時間が短かったことと、告知不足、対象者を探し出すことが難しかったという事もあり、最終的には14回の開催となりました。参加者延べ48名、リピーターあり（女性30名、男性9名）。男女比3：7程度。平均年齢78.5歳。まだまだ元気な方のご参加が多かった印象。手押し車を押されていたり、杖を突かれた方が多かった。平坦な場所は問題ないが、エスカレーターや段差は厳しい。付き添いの方いらっしゃると安心という声が聞かれた。行き先は、多摩センター、聖蹟桜ヶ丘の2か所。普段はそこまで外出しないことが多いとの意見も聞かれた。なにより、おしゃべりしながらの買い物が楽しかったとの意見もあった。行き先、イベント先での付き添いなどのお手伝いとして、まるっとの協議体のみなさん、生活支援サポーター、見守り協力員さん、総勢23名ほどご協力頂いている。この取り組み自体に興味を持って頂き、見学の方も10名近くおり、国交省、多摩市、地域の関連企業など49名ほどの視察者があった。反省点、気づきなど、色々まとめもこれからだが、出歩く癖がなくなってしまった方（何年も出歩いていない方）に外に出ていただくことの難しさを痛感した。そうならないために、出歩く事を習慣として頂く

事の大切さを感じた。体操だけでは外出のための十分な動機付けにならず、生活の中の一部として、食事をするとか、買い物をする等のサービスとしておこなうことで、お手伝いできるのではないか。ご利用いただいた39名の方々を戸別訪問してアンケートを取っている。それ以外にもURさんにご協力いただき、貝取、永山、諏訪地区に出歩きに関するアンケートを実施、900名程度、回収しているので、結果を集計中です。その結果も踏まえて取りまとめ、ご報告させて頂きたいと考えている。時期的には1月頃になる予定。これをもって多摩市の中で出歩き、外出の支援が出来るかという事を多摩市さんへご提案できればと考えてはいるが、具体的にどうするという事についてははっきり見えていない状態。場合によっては、コンテンツやイベントの内容なども変えてみて、もう一度実証実験を行わせて頂く可能性もある。その時にはご協力をお願いしたい。

司会

杉本さんから、次回移動モデルを検証するための計画をつくりましょうという、お話があったかと思うが、他の班から移動モデルを進めるにあたり、こんなこと気を付けた方が良く、どんな方法で進めるのかなど、ご意見を頂けたらと思う。せっかくお時間を割いてご出席頂いているので、一言ずつご意見やコメントを頂けたらと思う。最初に何かご意見や質問のある方がいたら願います。居場所チームから移動チームへの質問をお願いしたい。鶴岡さんお願いできるか。

出席者

移動の中で、地域の中で車両がというお話を頂いたが、実質的に全市的に広げると事業所との兼ね合いで、なかなか難しいと思うのだが、なんとなくイメージとしてそのあたりはどのようにお考えになっているか。全体として分科会の中で、具体的なモデルのプランなどがあれば教えて頂きたい。

出席者

交通の空白地等では、全市的に車両を走らせるという事もやっているようだが、出来れば都市モデルとして実施が出来ればと思う。全体的に行くと、事業者との兼ね合いが出てくるため、乗られる方が要支援1で何とかご自身で乗れること、地域で自分たちが少し何かできるといいね、というところで、地域限定で地域の中で動きが出てくれば。地域の中で（自治会の会で、場所まで行けないので役員になり手がいないなど）出ていけないという方々への支援が出来ればとイメージしている。また都市型のモデルになればと考えている。とりあえず、1つの地域で試行して、成功すれば、他の地域もやってみたいというところで、地域限定で永山モデル的なイメージをしている。車両に関しては、次年のところでは、今ある資源、社会福祉法人さん、事業者さんの空き時間、空車両を使わせて頂き、なるべくお金を掛けずにある資源を活用できればと思う。一番の問題が、車両の管理。個人の駐車場に置くとかは難しいところなので、貸していただくところがあるかどうかというところもある。この辺りで皆さんのご意見を伺いたいと考えている。また地域の皆さんの声を優先させながら考えていきたいと思う。

司会

資源で車両というのは、どうか。

出席者

デイサービスなどで使っていない時間帯など。他の事業者でも共通すると思うが、空き時間が合ったとして、その時間内に帰ってくるかどうかというところ。また、どなたが運転するのか、保険の関係。また事業者の名前入りの車両が多いので、どのように使うのかというところ。事故や運転についても事業者に迷惑が掛からないような配慮が必要となるので、事前にしっかりと詰める必要があると思う。

司会

寺田さんはどのようなご意見か。

出席者

お楽しみ系の出歩きが人気だったか、それとも生活密着系型の出歩きが人気だったのか。どちらが人気だったのか反応を知りたい。

出席者

今回のイベントではお楽しみがメインの出歩きしか行っていない。医療系・市役所への目的とした外出については、そもそも汲み取っていない。あったのかどうかも検証はされていない。アンケートには市役所への外出なども上がっていたようだ。イベントをお楽しみにとイベントして買い物してというところでは、イベントの楽しみがきっかけになった方もいるようだ。

出席者

地域に出ていってワークショップをしていく中で、地域の方々がどの部分で困っているのかということから、お互いサポートしていくという事になるので、住民の方々の困りごとという事で、居場所支援とか、目的地の支援など、ワークショップから出てくる助け合いについて、整理しながらやっていく事が必要。

出席者

クリニックや市役所などの決まり事には、タクシー利用をイメージできる。一方、楽しみの方は、タクシーを使ってまでと考えている人はいないと思うので、助け合いで出来るのであれば、QOL向上の関係で、この部分は良いかもしれない。

司会

ありがとうございます。麻の葉の伊藤さんから、何かあればお願いしたい。

出席者

全体的には捉えられず申し訳ないが、例えば麻の葉に来ていただいている方、介護予防教室に来て下さる方々を考えると、行きだけでも車で送ってもらえるとありがたいという声を聞く。お楽しみだけではなく、本来は、生活に密着して動いてくれるといいなと思う。

出席者

地域のニーズを探るとのことなので、ニーズを探るときにそうした視点を持っていけたらいいと思う。

出席者

今回のイベントの参加者が、女性7男性が3という事で、確かに男性は少ないが、サロンと比べれば、男性参加率が高いと感じた。男性参加者については、参考になる意見があれば教えて頂きたい。

傍聴

もともとは、ネコサポで人気があり、利用があつて、その結果出て来てくれたというところが大きい。趣味や遊びで何かしらできるということと、自分自身が活躍できる場、存在意義的なところが必要。ネコサポの名刺などをお持ちいただき、サポーター的な役割を果たしていただくなど、何かの役割を与える事が大切。社会活動などを織り込んだ方がより参加しやすいのではないかと思う。

司会

ありがとうございました。他に移動のチームに質問のある方。

今後移動のチームがこれから進めようという事についてご理解いただけたか。

出席者

皆さんが実験をする際に、心配事があると思うが、そのあたりのフォローについては第一層がしっかりとサポートしてあげることが必要。皆さんの協力が必要だ。

司会

多摩市より、お願いしたい。

出席オブザーバー

多摩市でも移動に関しては、他部署との関係がある。エリア限定であれば、他の交通局、他の事業者さんとも整理がつくのではないかとのご意見も少しある。始める前には町内の関係部局には相談をしようと考えている。今の動きも報告しており、今後の進み具合も随時報告させて頂きたいと思う。

出席者

移動に関して、新しいバスを買うわけにもいかない、移動をするに当たり、人をつけるというのなかなか難しい。生活に関する事は毎日の事。イベントを毎日やるわけにはいかない。循環バスの利用者が少ないので（2〜3人しか利用していない）、この部分を確定的に発展させて何かできないか？

弘前の大雪の際に、バス停はほとんどなく、手を上げて拾ってくれるというシステムもあった。こうした利用方法はどうか？料金も一定料金。こうしたシステムを拡大的に出来ないか。

司会

市のマスタープランと関係はあるか。

出席オブザーバー

現在作成中。最終まとめにも入っているが、その中では謳われてはいないが、使い方というところでは含まれていると思う。そうした話もあると伝えておく。そうしたお話を頂いたので、提案も今後できるのではないかと思う。

出席者

実用可能な議論が大事。大きな話は良いが、現実はどうかというところ。

今までの多摩市の循環バスは5年も10年も前のことを続けている。これからの事を想定してやってほしい。提案です。

司会

地域資源となるので、同時にリサーチを続けていきたいと思います。次に、生活支援・見守りについて報告したい。今日、急なことで淵野さんが欠席という事なので代わりに報告をさせて頂く。また新しく動き始めた永山地域連絡会については、河北医療財団の高橋さんから補足をお願いしたい。こちらの分科会も10月に1回、11月に1回開催されています。移動でマッピングの話が出ていたが、生活支援でも多摩市の地図を使ってマッピングを行った。その中でも、住民同士の支え合いの中で、どうしたら生活支援サービスを作れるのかというところでは、住民の方同士の顔の見える関係が必要、パンフレット（生活支援メニューの様な物）があると利用しやすいという意見が出た。永山地域連絡会の話に移るが、かわら版3、4号を資料として配布させて頂いた。平成28年度に中部地域包括支援センターが、あいクリニックから永山商店街に移る際に、見守り相談窓口も併設しますという事とで、地域住民とどういった形の見守りが出来るのかを含めて行った際の資料。永山地域は高齢化率が高いが、何とかしなくてはという意識も強い地域。この中で生活支援について、住民から課題が上がってはいたが、中部地域包括支援センターが、永山商店街内に移転以降止まっていた。再度地域の課題について皆さんと一緒に検討しましょうという目的で始まったのが、永山地域連絡会。分科会の方向性だが、永山の地域連絡会では意識の高い方々、小学校の先生、お医者さんなどが、永山地域連絡会でつながっている。第1層の協議体（生活支援の分科会）としては、永山地域連絡会をモデル的にとらえて、これを立ち上げる支援と、他の地域でやりたいという時の参考となるような、流れをまとめ、仕組みづくりが出来たらと考えている。他の地域でも助け合い、生活支援が出来ればという事で動き始めている。手元資料だと6ページ。他には、訪問B生活サポーター養成講座、こちらも生活支援のサービスとなるが、こちらは財源が介護保険を使ったサービスとなるので、全市的に広げていこうというところ。サポーターにもどんどんなって頂こうという事で、来年度も講座を開催の予定。高橋さんから補足をお願いできればと思います。

傍聴

本日、淵野がお休みを頂いておりますので、代わりに報告させて頂きます。永山ワークショップは、かわら版もお手元資料として配布させて頂いているが、毎月1回、計6回開催した。参加しているメンバーは、自治会、民生委員、多摩市、永山商店街のみなさん、瓜

生小学校先生方、永山中学校の先生、ゆりの木保育園の先生方、地域の中で暮らしている方、活動している方に集まって頂いている。昨年の活動は、中部地域包括支援センターの移転と見守り相談室の設置の為に、ご意見を伺いたいというスタンスだった。しかしながら、せっかく定期的に集まって頂いているのもったいないという事から、中部地域包括支援センターも、見守り相談室も出来上がったら終わりという事ではなく、今後どのようにしていくかを検討するためには、定期的にご意見を伺う機会を作ろうという事で永山地域連絡会に名前を変えて先日開催した。先日は永山ワークショップと同じような方々、約40名にご参加頂いた。行ったことは、かわら版でお配りしたように、大きく分けて4つの課題が出たことを確認しましょうという事だった。具体的に、さらに詰めていきましょうという事を、新たに振り返り、確認という事で行った。主だった意見としては、地域の住民の支え合いの活動を現在も活動している方々はたくさんいるが、前期高齢者がなかなか出てきてくれない、そうしたパワーをどうしたら活用できるか。案として出たのは、人材バンクのようなものを立ち上げられないか、困っている人と担い手に回れる人の情報を集約して発信できないか、という意見が出た。今現在活躍されている方々が活動を始めたころは、5、60代だったと思うが、その方々が活動を続けて70代後半くらいの方が多くなっているようだ。この先、5年10年たてば、同じ課題が今の60代の方にも出てくるといふところを確認して、さらに具体的な策を詰めていきましょうという形になっている。

司会

人材バンク、マッチングなど、永山地域連絡会を中心に、新しい支え合いの仕組み作りの検討を始めようとしているところ。

出席者

第1層の協議体で、総合事業の中で活動するという事になっているが、福祉亭の中で生活支援のご要望の多い層は、要支援の中でも軽度ではなく、重度の方々からの生活援助のお申し出が多い。それについてはどのような整理をしたらよいのか。それを支え合いで行なうのか。

司会

この前の永山地域連絡会では、具体的にはまだ出ていない。前回の振り返りと自己紹介。ただ、住民同士の支え合いの仕組みなので、そのあたりでも、どういう方に対して支え合いを行っていけるのかという検討もこれから出てくると思う。重度の方に対しては専門職へ繋げるという事のサポートも必要なのではないかと考えている。そのあたりは地域ごとにニーズも異なると思う。

出席者

私達がお手伝いをする方は、既に介護支援、ヘルパーさんが入っているが、それでも足りないという方、生活支援としては足りない部分についてのオファーが来るので、現実的に出来る部分については、今のところ福祉亭では無料でやらせて頂いているが、その整理はどのようにしたらいいのか、協議体の課題として一つ上げて頂けるとありがたい。

司会

生活支援の皆さんで何かありますか。

出席者

寺田さんの言っていることを聞くと、発足した会のイメージとは異なってくる。我々がスタートしたのは、要介護1・2の方々の軽い生活支援を目指して立ち上がってきた。重度となると、今のところ、支え合いの生活支援では難しいと感じる。

出席者

その答えで十分です。

傍聴

まだ、そこまでたどり着いていないが、移動のところでも似たような話あったが、サービスの提供主体が公的だったり、民間だったり、住民だったり、その住民も有償だったり、無償だったりいろいろな形があると思う。今は総合事業を、きっかけとして議論を始めたところから、この人も困っているとか、こんなサービス合っても良いよねと言うように、次に展開していくと思っている。常に出来上がり、ここにたどり着けば良いというところではなくて、ここから先の議論の積み重ねと、地域でニーズは似ていると思うが、大小の違いがあると思うので、その対応の仕組みが出来上がっていくのかなと感じる。

司会

事業者の藤咲さんはどう感じているか伺いたい。

出席者

重症の方、介護度の高い人は、今は介護保険などの公的なものを使い、また民間の有償サービスも使いながらやっつけらっしゃる方が多い。生活支援の中で、そうした方々をどうしようかと議論しているところ。介護度の低い方々を地域でどの様に支えていくかというところが、だんだん形になって表れていくと、広まっていくといいのかなと感じている。重症の方は専門職の方々にお願いするしかないのかなとは感じている。

司会

川田事務局長から何かコメント宜しいか。

出席者

生活支援の中での、助けあいでのゴミ出し、資源の回収などちょっとしたことで出来るという事で良いのかの確認。介護の話の部分は、今回の生活支援とは対象外の確認。要支援1・2、もしくはフレイル予防、そこを維持するための生活支援であり、ひどくならないための、フレイル予防と言う事を維持していくための、支え合いがあればいいのではないかと感じている。グループ内でもそのような話題が出てくるくらいなので、お困りとは思いますが、そのあたりは線引きが必要ではないかと感じる。対象が広がって行き過ぎると対応しきれない。

司会

なんでもかんでもだと負担が大きくなってしまわないかというところ。そのあたりのニーズもこれからというところ。地域住民の方と永山地域連絡会でどんなことが出来るのかを話し合うというところ。

傍聴

そうですね、これから。

司会

淵野さんは欠席なので、次回そのあたり、永山地域連絡会が来年の1月に開催予定なので、そのあたりの進捗も報告させて頂ければと思う。次は居場所、こちらは寺田さんからご報告をお願いしたい。

出席者

居場所の分科会でのご報告をさせて頂く。検討内容はまず、今年度の目標として「居場所冊子」を完成させたいとの思いがある。高齢支援課、社会福祉協議会、ボランティアセンターが持っているデータがあるので、市民向け、もしくは私たち向けに使いやすいものとなるよう検討していきたい。それ以外にも課題はたくさんある。サロン数をいくつにするのか。157か所とかそのくらいを想定しているが、社会福祉協議会の森田さんたちが、大変な努力で行っている。数だけ増やせばよいわけでもなく、有効な居場所、ロケーション、条件など良い活動の場所としていくかというところで、検討課題になっていくと思う。それから、特に社会福祉協議会から、認知症の方も、何か役割を持ちながら関わられるサロン作りが出来ないかとの提案を頂いた。市内8か所で認知症カフェとして活動している所があり、福祉亭も「ものカフェ」として参加しているが、なかなか十分な活動にはなっていない。日常でお困りのご本人、家族の為になるカフェはどういったところなのかというところを検討していきたいと思う。NPO法人だけではなく、各事務所、居場所分科会の皆さんの力だけでは難しいところで、各所、ネットワークオレンジ、いこいの会などからご意見を伺い、ご相談しながら情報共有をしたいと考えている。また、通所Cの卒業生のうち、地域との繋がりが出来なかった人が、どのような要因で繋がりを持つことが出来なかったのか、皆さんと考えていきたいと思っている。先程もお話した軽度認知症の方でも通える居場所づくりについては、どのようなものが宜しいかというところ。閉じこもり傾向のある方、行き先がない人への対応について、こちらはなかなか非常に難しい。地域包括支援センターの皆さんが、福祉亭をご紹介にいらっしゃるが、定着される方は少なく、訪問しても1回で終わってしまうという現状がある。どういった対応が良いのか、皆さんにご相談したいところ。その他、移動との連携を持っていきたいと思っている。移動は移動でテーマを持っているので難しいかもしれないが、歩いていく方の同行、サポートが難しいと考えている。居場所としては限定しないが、移動との連携を図れたらと思っている。

司会

スライド3で、必要なサロン数という事で、157か所という数字が出たが、介護予防の横展開という報告があるが、そのあたり桐林さんから補足的に少しご説明頂きたい。社会福祉協議会のサロンが82か所あり、介護予防教室が12か所。更にその予防教室の12か所を横展開しようという動きです。

出席者

週1回の住民さん主体の活動の場というのを、国の流れももちろんあっての多摩市でも展開させていきたいとのところで、増やしていきたいというところ。どなたでも来れるようなメニューだったり、色々な方が行けるように身近な場所にあるようにとなると、歩いて15分程度のところ。少しの箇所では足りない、たくさん必要となる。増やしていけるように、住民の方が作ろうと思ったときにサポートが出来る様という体制を、社会福祉協議会と一緒に整えられるように考えている。それは介護予防に資するような活動になるようにとの事で、介護予防に効果的な体操を取り入れつつ、週1回の活動をサポートしていきたいと考えている。人数の計算にもよるが、50から160か所。1か所の参加者が少ない場合には、もっとたくさんなければいけないという話にはなる。

司会

場所は何処をイメージしているか。

出席者

多摩市全域。

司会

ありがとうございました。居場所について何か質問のある方、お願いしたい。

出席者

はい、まとめ部分の通所C（元気塾）の卒業生地域との繋がりが出来なかった人についてのところを詳しく教えてください。

出席者

次回以降の検討で、元気塾を卒業後、なかなか地域との繋がりが持てない人たちがいるという事に対して、元気塾スタッフから諏訪にある「すくらんぶる一む」というところで、居場所づくり、サロン作りが始まりましたとの報告があった。その部分を見守るというところと、要因の分析がまだ出来ていないので、そのあたりも取りかかれたらいいですねと言うまとめです。

出席者

元気塾の卒業生のデータ集計を市の方と行っている。今、8割弱の方が地域の活動に繋がっている、重複するかもしれないが、その他部分に介護保険を使われる方、家族などの個人的な事でつながっていない方がちらほらいる。繋がってはいるけど、続けられていないという方の要因を探っていかなければいけないというところになるのかなと思っている。軽度の認知症の方々も、元気塾にはたくさん参加されていた。そうした方々が通い続けられないような印象がある。曜日を確認できなかつたり、場所が分からなくなってしまった

り。ちょっとしたリーダーさんのサポートや担い手さんの声掛けがないために行けない方がいるのではないかと感じているので、是非一緒に進めて、検討していきたいと思う。

司会

ありがとうございます。認知症の方々の居場所というところ。認知症の方が集まるという事ではなく、今ある既存の地域のサロンなどや、認知症カフェに通っていただけるのか、同行があればという話もあったが、居場所のチームで既存の地域資源も含めて、検討していければと思う。

出席者

認知症とか、様々な病気をお持ちで過ごされている方がいて、どの方も普通に接して頂きたいと感じている。その素地作りが大切。福祉亭でも毎日毎日、色々な事が起こっているが、ご本人は普通に扱われたいと感じている。雰囲気づくりを進めていくのが居場所分科会の1つの役割なのかなと感じている。いずれにしても軽度でなくても、認知症の方が通える居場所と言ったときに、伴走者、ご家族がいらっしゃる方は、比較的数時間でも滞在できる。お一人でいらっしゃると落ち着かない、なじめない、お食事をしてもすぐに帰りたいという様子、雰囲気が感じられる。何とか一般の市民の皆さん、住民の皆さんのお力を借りられるとしたら、是非伴走者になって頂きたい。色々な方がいらして、この人とは無理など、難しいが普通の方が取り掛かれるところの総合事業の取組として伴走者としてありかなと感じている。次の分科会で進めて頂けたらと思う。

司会

移動のチームから居場所に、何かあればお願いしたい。

出席者

何処でも受け入れが可能となると、現状では、なかなか難しいと思う。軽度の方が地域で受け入れられるようにという、受け皿作りの動きが出てきている。前回の話し合いの際に突然認知症の方がいらしても受け入れられる場所が必要だという事だったが、それはひょっとすると通所Bが当たるのではないかな。誰でも行ける場所と、専門家のいる場所、その2つを別々に用意するという事も必要なのではないかな。みんなが受け入れられるというところを目指すにはかなり時間がかかってしまうと思うので、そこに行くと認知の方も気持ちよく過ごせる場所というのを用意する、時間を掛けずに今すぐにでも対応できる場所を作るという意味では、専門職を置く居場所を作る必要もあるのではと思うが。

出席者

介護度の重い方を突然受け入れるのは難しいので、専門家の手を借りたいという話。いつでも大丈夫というのは、かなり軽度であれば可能。

杉本

専門職のいる別の場所があってもいいのかな、という意味です。

出席者

麻の葉で行っている認知症カフェは月1回。第2土曜日は認知症カフェをやっていますというのを周知頂いている。その日は認知症の方が多い。その日を専門職の方やご家族の方が調べて下さって、連れてきてくださる状況。その時は、お話を聞いたり、専門職の方と共に対応している。居場所に関しては、どなたでもいうスタンスで受け入れている。

出席者

話をごっちゃになっていると思う。理想系をいえばそうですけれども・・・という事だと思います。

出席者

通所Cの卒業生を通所Bとしてやっていく事は可能だけれども、そこに認知症の方をいきなり受け皿という事は専門職がいるいないにかかわらず、難しいと思います。

出席者

麻の葉の事ではなく、そう場所が必要だなと感じているというところです。

出席者

そこは、8か所で進めていますね、というところです。

出席者

先程、お話があった移動と居場所の連携についてですが。

出席者

それはそれで進めて頂いて、それ以外にも連携出来ればというところ。

出席者

麻の葉でこんなのがあったらいいなという話を話すと、一人で出来るのは難しいところで、通所Bの方が一緒に来ていただければありがたい。買い物に行くのも、車を呼んでいくのが難しいところをお手伝いしてもらえると嬉しいなというところの移動。教室やイベントに行くだけでも、車があるといいなという方がいるので、そのあたりで居場所と移動が連携できるといいなと感じている。デイサービスの空いている時間帯に、車両をお借りしてなど。

司会

畔上さんから、前回この認知症の方の受け入れについては、提案があったと思うがどのようなご意見か。

出席オブザーバー

認知症の方でもサポートがあれば、参加可能である。しかしながら、サポートがない場合で、どこかに入れて頂きたいとなった時に、どこか受け入れ場所があると居場所となるのかなと感じている。サロンなどでは、突然来られた時に対応などが難しい。その対応は住民レベルではなかなか難しいと思う。住民レベルで難しいところをこのようなところを第1層協議体で議論していければ、形になっていくのかなと。そうしたイメージはある。

司会

居場所では、既に活動しているところにも働きかけ、また関係者のヒアリングなども行っていく方向性で、既存の地域での活動で難しいという事であれば、新しい居場所も検討できればという事で、進めていければと思う。

出席者

例えば、居場所の分科会の中でもいろいろな話が出ているので、軽度の方の居場所として地域資源を活用できないかというところがメインの話としてある。認知症や身体的な虚弱としての軽度も含めて。そういう方々が今あるサロンや地域で行っている団体の活動に参加する際に、それを居場所として活用させていただく時に何がハードルとなるのか。まず、自分で行くことが難しい、参加してもなじみ方も分からないというところがあった時に、同行できる人がいると良いねとなる。地域内で移動には、車があった方が良くなれば、それは移動とのかかわり連携がとれるのか。寺田さんからお話があった通り。畔上さんからお話があった第1層の協議体で、例えば認知症の方の居場所づくりを検討してはどうか。これが介護保険の要支援の部分で、協議体の中で取り扱うテーマかどうかというところで、整理する必要性があるのではと思う。具体的な解決策として例を挙げるなら、市内にある認知症型の通所介護（2か所ほどある）そのサテライト展開として、地域のそれぞれの団地、自治会の空いている場所で、週1回サテライト的に行いましょうかという事であれば、そういった展開は可能。これは、純粋な介護保険のサービスになってくるので、切り分けが難しいところという印象。

司会

そのあたりも、整理していく必要があると感じる。続いてイベントについての報告だが、田村先生の代わりに報告をする。会議の開催は2回。内容については、当日の登壇者の方へのお願いと調整、どんな内容で行うかという議論が中心となった。スライド3で開催内容案、土と育む地域交流、地域で生まれる支えあい活動をテーマに、5団体に活動発表をお願いしている。1団体15分。第二部で、多摩市の健幸まちづくりの取組みなどのところは、安里政策監に打診しているところ。最後は田村先生をファシリテーターにパネルディスカッション、交流会という流れになっている。意図としては、地域交流のきっかけとして「土」というところ、農業・園芸・ガーデニングというところ、市民の方にとっても興味の高いところ分野はないかということで、テーマ設定をさせて頂いた。最初、農業を進めたが、少し市民にとって参加のハードルが高いということで広がりを持たせた。地域で生まれる支え合いの活動としては、協議体が進めようとしている理念に沿った自主グループをお願いしている。そこが健康まちづくり多摩市の進めている部分と、どのような位置づけにあるのか、パネルディスカッションでは、支え合い活動のきっかけ作りや課題などについてお話しいただく予定。イベント開始時間は13時からで、パネルディスカッション終了は15時30分迄を予定。その後1時間を交流会として予定している。登壇の方々は、スライド5、多摩市の農家園芸など。1. 恵泉女学園、宮内先生、2. 昨年健幸甲子園での優勝団体、相澤農園（農家さん）、ご承諾頂いている。グリーンライブセンター内にグ

リー森木会という団体があるが、事務局長にその取り組みについてお話しいただけることで承諾頂いた。支えあいについては、社会福祉協議会の森田さんに紹介いただいた。1. 一ノ宮の「たまりばらんど」さん。自宅解放型のサロンを月1回行っている。2. 聖ヶ丘「お手伝いエブリー」（住民同士の得意なことを出し合って登録制で、住民の方の困っている方をマッチングする）。以上が5団体。冒頭で説明の通り、当日のお手伝いを皆様には1月28日の午後にご協力お願いしたい。役割分担についてはこれから検討する。チラシは完成後にお届けする。役割については、受付班・会場班・舞台班、リーダーさんはイベント班の方々なので、そのリーダーさんにそれぞれについて頂くイメージ。分科会の報告は以上となる。その他の報告が2点。高齢支援課さんから介護保険計画について、皆さんへのご報告。さわやか財団の理事、丹先生より「さあ言おう！」「さあやろう」の冊子についてのご紹介。こちらは、他の自治体の協議体やコーディネーターの取組や動きが良くわかる物で、お時間のある時にご覧頂ければと思う。では、多摩市よりお願いしたい。

出席オブザーバー

多摩市では、高齢者保健福祉計画、介護保険の事業計画を策定中。3年に一度改定しており、介護報酬等も国の物を反映させた上で策定、皆さんからいただく介護保険料が決まる計画になっている。1月になるとパブリックコメントを頂く予定。1月1日発行の広報で告知予定。パブリックコメントの提出期限は1月15日から1月31日。また随時市民説明会を開催予定。日程は、1月19日（金）18時からパルテノン多摩シティサロン、1月23日（火）14時からベルブ永山、1月24日（水）聖蹟桜ヶ丘ヴィータの第1・2会議室、1月27日（土）10時から市役所西庁舎にて。今回は協議体の事や生活支援コーディネーターの配置の事など、そのあたり書かせて頂いている。その中で地域のワークショップや住民の方の課題、解決できないところは、第1層の協議体を通じて様々な団体のサポート頂きながら、検討して進めていきますという書き方。皆さまにも公表できるようになったら、ご覧のうえご意見を頂けたらと思う。先程少し、移動の部分で交通マスタープランの話が出ていたが、こちら確認したところ、交通マスタープランのパブリックコメントが1月20日号の広報にてお知らせが入るとの事。これからということで訂正させて頂く。パブリックコメントは1月20日から2月10日の、この間で交通マスタープランのパブリックコメントを受け付けている。藤井さんは是非コメント寄せて頂ければと思う

司会

では次に、丹さんからお願いしたい。

出席オブザーバー

さわやか財団の丹です。みなさんへ「さあやろう！」をお配りしています。「さあやろう！」というのは、全国の協議体、コーディネーター向けの参考資料として出し始めたもの。多摩市さんは精力的に取り組まれている、さわやか全国的に見てもとても素晴らしい取り組みを行っていると思う。特に、分科会は具体的なテーマに取り組まれているのは素晴らしいと感じる。そういう前提の中で、移動サービスからのお話もあったが、第1層と

しては市全体を考える。具体的に地域の中でという事は、第2層となると思う、第2層はこれから10地区出来てくる予定の様だが、そうしたところで、細かい住民の声を拾いながら、そのニーズに沿った対応を考えていこうというところは、他の分科会のテーマとしても大切。多摩市の場合には、第二層協議体をこれから作っていくところという事ですが、社会福祉協議会の森田さんなどは大変だと思います。さわやか財団では仕組み作りをステップ1と考えている。第2層はこうして作りかかっているという事が、17ページに記載があるので、重点的に読んでいただければ良いかなと思う。これが基盤作りにあたる。基盤が出来たら、次に何をすればよいのかというと、ステップ2(12ページで紹介)。さっきの移動サービスのような、地域ごとの住民の様々なニーズを掘り起こす作業。少人数のワークショップ、多摩市は先頭を切って各地で開催されましたが、掘り下げてニーズを発掘する方々ニーズが出てくると、どんな担い手が必要か浮かび上がってくる。このニーズと、担い手の掘り起こしがステップ2にあたる。ニーズの把握が協議体と生活支援コーディネーターが真っ先に行う任務ですと、堀田も記載している。次にステップ3(2ページにて紹介)、つまり目指す姿がステップ3という事。「生活支援コーディネーターと協議体による地域の課題解決」。地域の色々な課題を解決する。課題は随時新しいものに代わっていくので、それに対応してレベルアップしていく地域づくりを目指しましょうという事。居場所でもあったが、10年先の地域の目指す姿をワークショップで考えて、そこを目指してスパイラルでレベルアップしていきましょうというのが最終的な良い形と伝えている。こんなことを参考にして頂き、それぞれの立場や活動に生かしていただけたらと思います。最後に先程寺田さんからお話があったが、重度の方、認知症などの方の対応はどうするのかという事について、こちらについてはそこまでは体制整備事業では当然考えていないと思われる。でも、境目をどうするのかというところについて、厚労省、財務省では、要介護の1・2位までは住民対応にてお願いしたいという話がちらちら出ている。そうした事を念頭に置くと、寺田さんがおっしゃっていたことも考えておかなければならない。さわやかでも問題意識を持っており、有識者に集まって頂き、それを取りまとめしているところ。要支援1・2程度は支え合いで、地域で支えて安心できる地域を作るが、重度の部分はどうするのか、どこまで住民の助けあいでカバーできるのかというところを、整理して、皆さんにレポート出来ると思うので、しばらくお待ち頂ければと思う。

司会

各分科会チームで集まって頂いているので、今日の協議体の意見などまとめて頂き、チーム毎に次の分科会にどのような議題で臨むのか検討頂ければと思う。5分程度たったら次回の協議体の開催日時のご案内をさせて頂く。

(各グループごとに検討)

最後に次回のまるっと全体会は14時15分から16時15分で開催させて頂く。会場後日ご連絡する。1月28日にイベントがあるので、直後は難しいので、2月27日(火)に開催とさせて頂く。

以上で、閉会する。

(閉会 16 : 15)